

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A中学校)

○学級委員会による、授業に取り組む環境の整備

毎日、1校時～6校時までの授業で、チャイム前着席、授業の忘れ物、立ち歩き、授業中の私語などの項目について学級委員が教科担当と確認し、授業に前向きに取り組むことができる環境の整備を行っている。落ち着いて学習に向かうことができる環境を整え、生徒一人一人が安心して授業に集中できるよう、生徒同士で意識的に声掛けを行っている。

#### 【取組2】(A中学校)

○体育祭や合唱コンクールなどの学校行事において、大切にしたいウェルビーイングの要因を以下の、4点のカテゴリーに分けたカードを使い、生徒が互いの気持ちをよく知ることができるようにしている。

- ①「I (わたし)」A：自分自身に関すること(熱中、挑戦、達成、成長、自分で決める、希望、自分らしさ、心の平穏、日常)、
- ②「WE (わたしたち)」B：人との関わりに関すること(友情、共感、愛、あこがれ・尊敬、応援・推し、認め合う、信頼、感謝、祝福)
- ③「SOCIETY (みんな)」C：集団や社会との関わりに関すること(思いやり、協調、多様性、社会のルール、社会貢献)
- ④「UNIVERSE (あらゆるもの)」D：生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること(生命・自然、縁、平和)自分が心に描いているイメージが引き出され、相手と共有し、その相違について対話をするすることで、互いのつながりを大切にしている。



#### 【取組3】(B中学校)

理科の実験観察で、顕微鏡で微生物を見てデッサンをする授業を行った。その際、各グループの生徒にそれぞれ異なる役割を与え、実験の方法を細かく確認しながら実験を進行し、生徒全員が安心して学習に取り組むことができるように工夫している。また、生徒に次の手順を指示する際に、モニターに注目するよう指示し、実物の写真を見せて説明するなど、視覚を通して理解できる分かりやすい授業展開をしている。

#### 【取組4】(C中学校)

管理職に確認を行い、校内研修で使用するプレゼンテーション資料をPDF化して、研修日よりして月2回発行した。そのデータを教員に配信している。質問事項などはメールで質問を受けられるようにしている。生徒意識調査の結果や、他の研修で得た有効な手法や対応方法、不登校についての捉え方等について発信している。

## 多様な学びの場を確保する取組

### （「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

#### 支援会議（D中学校）

支援会議で連絡が可能な生徒を確認し、担任と学年の教員で、具体的に分担して、生徒を、「誰が」、「いつ」、「どこで」、「どのように」支援するかを明確にするなど、学校として不登校生徒に対応する仕組みを整えている。

#### アウトリーチによる支援（B中学校）

不登校の生徒に対し、SCと連携して支援し、放課後のわずかな時間ではあるが、登校することができた。保護者と共に登校し、ソーシャルスキルトレーニングを行った。その結果、生徒が自ら話しかけようとするなどの変化が見られた。

#### 校内別室における支援（E中学校）

校内別室を家庭科室および生徒会室で開室している。

朝の会 9:30～10:10（今日の目標を決める）

1校時 10:30～11:00、2校時 11:20～11:50、

3校時 12:10～12:40、給食、

今日の振り返り 13:10～13:30

支援員が毎日配置され、月～金曜日の同じ時間帯に開室している。安心して毎日通う生徒が多い。

担任が授業の合間に来室し、生徒が気軽に相談することができる。給食を食べて帰る生徒が多い。



#### デジタル機器を活用した支援（B中学校）

教室用の授業配信専用端末を4台準備し、授業を配信するクラスには、事前に職員室で配信予定を確認し、教科担任がオンラインで授業を配信している。



#### 関係機関との連携（A中学校）

教育支援センターを訪問して、生徒のセンターでの生活の様子と情報を共有した。巡回校の生徒が複数在籍しているので、今後は当該生徒の担任教員とも面談を行い、保護者との連絡方法等について確認をしていく。

## 成果

新しく校内別室をつくり、運営することができた。保護者や生徒への周知を行い、SCとの面談後、養護教諭からの紹介で校内別室を利用する生徒の中には、継続して来室することが多くなっている。

## 課題

支援委員会での支援の方策について、全教職員で共有する効果的な方法を模索する必要がある。担任や学年、教科担当等との連携の更なる充実を図っていく。